

非破壊検査のワイズソルが

メンテナンス工業会技術賞受賞



非破壊検査、熱処理工事等を行った^株ワイズソル(西区南観音6-2-13、中野克己社長)はタンク等のスクリーニングに使用する非破壊検査機器が日本メンテナンス工業会の「メンテナンス技術賞」を受賞した。

同社が自社開発したタンク目視検査ロボット「i-Robo」(写真)

は、他のモノづくり企業と連携し、平成26年に完成。27年から現場に導入している。タンクの壁面

を走行し、タンクと補強部の溶接部分をカメラで撮影。無線で送られてきた画像データをもとに、腐食の有無を確認する。これまでの点検では、タンクにゴンドラ等を吊るし、目視で点検を行っていた。大型タンク(直径50~80メートル)の点検には1~2週間かかっていたが、同機器を使用することで作業日数が1~2日に大幅に短縮されるなど、作業員の安全性の向上や効率化に繋がっている。

メンテナンス技術賞を受賞した開発ソリューション部の永田博幸主任技師は、「今後も機能面での充実を図り、様々なタンクで使用できる汎用的な装置にしたい。燃料タンク以外にも適用できる構造物が増えればと考えている」と意気込みを話した。

また、同社は9~11日にタイで開催された石油、ガス関連企業が出展する大規模展示会に初出展。超音波で配管の厚さを測定する測定機器を出品し、石油・ガス産業が発展している同国での反応を探つた。国内の石油関係企業が縮小傾向にある中、海外での展開を検討することで市場の開拓を目指す。